



二十歳を祝う会【西村委員 撮影】



議会だより

北海道小平町



Contents

第4回定例会・一般質問	2P
総務産業常任委員会所管事務調査	3～4P
議会の動き	4P

No. **103**
2025.2

12月定例会

会期は12月6日から
12日までの7日間

専決処分の承認

- ▼令和6年度小平町一般会計補正予算(第3号)
 - 569万1千円を追加し、46億468万6千円に。

補正予算

- ▼令和6年度小平町一般会計補正予算(第4号)
 - 1億1千180万2千円を減額し、44億9千288万4千円に。

- ▼令和6年度小平町国民健康保険特別会計事業勘定補正予算(第3号)
 - 210万8千円を追加し、4億6千397万4千円に。

- ▼令和6年度小平町介護保険特別会計保険事業勘定補正予算(第3号)
 - 3万6千円を減額し、3億7千512万6千円に。

- ▼令和6年度小平町介護サービス事業特別会計補正予算(第3号)
 - 1千903万8千円を減額し、2億8千526万3千円に。

- ▼令和6年度小平町水道事業会計補正予算(第2号)
 - 207万9千円を追加し、3億8千896万6千円に。

- ▼令和6年度小平町下水道事業会計補正予算(第3号)
 - 14万3千円を減額し、3億1千309万7千円に。



第4回定例会の一般質問は、12月12日に行われ、1名の議員が質問しました。

- ①有害鳥獣駆除ハンター育成補助について
- ②防災関連情報伝達手段について

瀧川 司



①有害鳥獣駆除に対し猟友会の高齢化やヒグマ駆除への協力の賛否が報道されているが猟友会と連絡を密にしてハンターの育成等に取り組む必要があると思います。

北海道開拓時代からヒグマなど野生鳥獣と対峙してきた中で開拓時代には現在よりある程度の銃火器があったにも関わらず人身事故が数多く記録されています。

有害鳥獣との緩衝地帯や農地への侵入を防ぐためにもハンターの育成、

増員が必要でないでしょうか町長の考えをお伺いします。

②防災関連情報伝達手段における独自のアプリ開発、ICTの提供や貸与を進め、緊急情報はもと

より防災、防犯のために常に情報を発信するとともに町民からの情報提供を受けるためにも相互通信できる機器の活用を図っていくことにより高齢者の見守りにも繋がりが

認知症の予防や健康管理にスマートスピーカーを導入する自治体も増えています。

気候変動に伴う災害が頻発している現在だからこそ町民の安全・安心な暮らしのために有効な手段となるよう、ご検討を

頂きたくお伺いします。

- ①有害鳥獣駆除ハンターの育成については町民や役場職員の中からハンターを目指す人材もいるので現在の補助、助成を継続していきたい
- ②防災無線の老朽化によ

る更新を含めた検討が必要となっており、今後はデジタル社会を見据えた新たな情報伝達手段の構築を考えている

町長 関 次 雄

①ハンター育成には公安委員会から銃砲所持の許可の取得が必要となり猟銃所持のための講習会、射撃教習、医師の診断書、犯歴や病気の経歴書など様々な手続きが必要となる事から必要な情報を町ホームページなどを通じて周知したい。

助成については有害鳥獣捕獲および警戒活動従事者に対し5万円を交付、猟銃取得に対しては国の補助金を活用し10万円を助成している。猟銃取得は趣味としての取得と有害鳥獣との区別が難しい事から今後も同様の助成が適当と考えている。

7年度には国の補助金を活用し箱罾を追加しピンポイントではなく複数箇所での捕獲も試みる予定である。

有害鳥獣駆除は広範囲に生息するヒグマなどを駆除するのですぐに結果は現れないが町としてできる限りの努力をしていく方向である事をご理解頂きたい。

②災害関連情報は現在防災無線や消防広報車、町ホームページで周知しているが防災無線が平成18年に設置され修理のための部品の供給も難しい状況であり、現在も聞き取りづらい箇所があるのも事実です。

防災無線の更新も視野に入れながらも今後は町民の皆様へアプリやタブレット端末などICT機器の導入整備を進める事が必要と考えている。

ICT機器による積極的な情報入手が難しい場合、電話型のIP端末の設置なども視野に入れ情報伝達手段の多様化、多重化に取り組んでいきたい。

ふるさと会交流及び姉妹都市親善訪問レポート

昨年10月19日～21日、酒谷副議長を団長に外議員3名と町長で上京し「第20回東京おびら会」及び「第46回小平市民まつり」に参加しました。19日上野で行われた東京おびら会親睦会には、当町出身の会員16名が参加されており、昔話や現在の小平町の状況を中心に懇親が図られ、再会を願いつつ会場を後にしました。翌20日には、晴天の下、20万人都市の華やかな市民まつりパレードに参加し市民皆様と交流し、夕刻に小林市長も出席された懇親会では、両市町の今後の新たな交流についても懇談がなされ、姉妹都市締結の意義が再確認されました。また、議会訪問団とは別に町・経済団体で構成する物産班も参加し、ホタテ・米等の物販を通じ多くの市民皆様に小平の味覚をお届けすることができました。



総務 産業 常任委員会 所管事務調査

昨年10月29日から31日までの3日間、総務産業常任委員会の所管事務調査で「ブルーカーボンの取組」と「部活動の地域移行」等について、道内3町を視察しましたのでその様子を報告します。

○ブルーカーボンの取組について 寿郡都寿都町

平成19年より施肥事業に取り組み、平成25年施肥製造プレス開発・導入により堆肥分解性ブロックを生産し、前浜に4千個投入している。堆肥製造施設は、海岸部にあり製造された堆肥ブロックを容易に搬出できる。

○委員会所感

今回の視察は、ホタテ貝殻の処理に端を発し、堆肥の有効利用の観点から実施したが、新星マリン漁協も独自に視察しており、来春試験的に小平

町の堆肥を持込み、プレスした後、海に投入する予定である。

当町の基幹産業である漁業を衰退させないためにも、行政・産業団体が連携し事業を展開する必要性を強く感じた。

① 児童生徒の文化活動及びスポーツ活動への助成について

② 部活動の地域移行について

③ 議会中継について

白老郡白老町

① 町立小中学校の児童・生徒が全道・全国大会に出場する際の派遣費等の一部を助成して、子供達の夢や可能性を育む取組を行っている。



② 町の取組をイメージした「白老町中学校部活動地域移行推進計画」を教育委員会が令和6年2月に策定した。

③ 平成14年12月からインターネットを活用した議会中継の導入を検討し、平成15年5月臨時会から試験配信を開始し、平成15年12月定例会から本格実施した。

○委員会所感

①② 少子化により子供の人数が減少しているばかりではなく、近年スポーツ活動を行う子供たちが減少傾向にあることが、人口に関わらず起きてい

る現状を認識した。このため、団体スポーツは一定の範囲でのチーム編成ができず、広域化により益々その機会が失われつつある。また、保護者の費用負担や送迎の時間確保等、新たな課題が発生しており、団体スポーツを行うことが難しくなる。健全な心身を育むためスポーツの果たす役割が重要と考えることから、新たな支援策の必要性を感じた。

また、各スポーツの指導者確保は大きな町でも課題となっており、まして当町のような小さな町ではより一層課題となっている。町の未来を託す子供たちの学びの機会を確保するための十分な議論が必要だ。

③ 開かれた行政運営及び議会活動の一端を情報発信できるため実施に向け、細部の協議を重ねる必要を感じた。更に、議員の成り手不足解消の一助ともなることも感じた。

○エゾシカ肉の活用について 樺戸郡浦臼町

エゾシカの捕獲から搬送・処理加工、販売がしつかりつながって、安全で良好なジビエを安定供給することが目的で、ジビエモデル地区として北海道から強い要請がありジビエ処理加工センターの建設に至った。



○委員会所感

当町のエゾシカの頭数は今後とも増え続けると予想される中、当町においても同様の施設が必要と考えるが、肉販売も含め運営内容の計画性、施設建設場所の決定には十分な協議が必要と考える。

※なお、紙面の都合により、説明等の一部を省略しています。

留萌南部三市町議会議員研修会

昨年11月15日、留萌南部三市町議会議員研修会が開催され、当町全議員をはじめ留萌及び増毛の議会議員23名が小平町文化交流センターに集まりました。

基調講演は、留萌振興局地域創生部長の上坂勇人氏を講師に迎え、テーマは「地域創生と人手不足一留萌地域の発展に向けて」と題して講演いただきました。講演では、人手不足の現状と要因及び留萌地域でできること等の貴重なお話を聞かせていただきました。



議会の動き

10月

- 19日 東京おびら会親睦会(副議長外3議員)
- 20日 小平市民まつり(副議長外3議員)
小平幼稚園発表会(議長)
- 23日 小平町スポーツ協会スポーツ賞表彰式(議長)
- 24日 東京都小平市議会行政視察(議長)
- 29日 総務産業常任委員会所管事務調査行政視察
【寿都町・白老町・浦臼町】(7委員)
- 31日

11月

- 3日 小平町表彰式(議長)
- 10日 小平町町民文化祭(議長)
- 13日 第68回町村議長会全国大会【東京都】(議長)
- 15日 留萌南部三市町議会議員研修会(全議員)
- 26日 総務産業常任委員会(7委員)

12月

- 2日 議員全員協議会(全議員)
議会運営委員会(全委員及び議長)
- 6日 第4回定例会開会(全議員)
総務産業常任委員会(全委員)
- 12日 第4回定例会再開(全議員)
総務産業常任委員会所管事務調査(全委員)
議会広報発行特別委員会(全委員)
- 24日 留萌消防組合議会第2回定例会(各議員)
- 27日 総務産業常任委員会調査報告書提出
(議長及び総務産業常任委員長)

1月

- 8日 小平消防団出初式(議長)
- 9日 小平町民新春交礼会(議長)
- 10日 議員全員協議会(7議員)
- 11日 大漁祈願祭(議長)
- 12日 小平町二十歳を祝う会(議長)

あとがき

本年は、昭和年号で換算すると百年となる。当町住民の多くは昭和世代であり、日本経済の上昇により町のあらゆる分野で好景気を生み出した時代でもあった。その後、平成・令和と年号が変化するにつれ、人口減少と高齢化が進み町の状況は刻々と変化している。特に出生数は減少し続け、5年後の小学校新入生は10名を下回ることが確実だ。

町づくりの原点は人づくりであることから、多くの分野で人材を育成しなければ、産業はもとより日常生活もままならない状況となる。町の活力を平成・令和生まれの若い世代に引き継ぐためには、これまで以上にアイデアを絞り出し、明るい未来を創り上げていかなくてはならない。

(杉本)

●発行 小平町議会
●編集 議会広報発行
●特別委員会

TEL (〇一六四)
五六―二二―一
印刷 (株)留萌新聞社